

株主の皆様へ

SAKATA INX...

Visual Communication Technology

証券コード: 4633

第143期 報告書

2020年1月1日～2020年12月31日

C O N T E N T S

	株主の皆様へ	P. 1	連結財務諸表	P. 4	株主様向け情報	P.12
	新型コロナウイルス感染症の影響と新たな取り組み	P. 2	セグメント別概況	P. 5	株式情報	P.13
	連結業績・財務ハイライト	P. 3	長期ビジョン／中期経営計画	P. 7	会社情報	P.14
			グローバルネットワーク	P.11	株主メモ	P.15

株主の皆様へ

To Our Shareholders

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本年3月26日開催の定時株主総会にて承認をいただき、代表取締役社長執行役員に私、上野吉昭が就任し、前任の森田耕太郎は取締役会長に就任いたしました。一般、サカタインクスグループは、サステナブルな社会の実現に貢献しつつ、当社グループがさらに発展していくことを目指し、長期ビジョン『SAKATA INX VISION 2030』および『中期経営計画2023(CCC-1)』を策定しました。事業環境が大きく変化をする中で、既存事業のさらなる発展や新たな事業への挑戦、グループの変革などを推し進め、2030年の目標達成に向けて、株主の皆様のご期待に応えるべく、取り組んでまいります。

第143期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の大流行の影響による社会・経済活動の抑制により厳しい状況が続きました。先行きにつきましては、社会・経済活動の段階的な再開やさらなる経済対策の効果により、一部で持ち直しの動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の収束にはなお時間がかかることが想定され、予断を許さない状況が続くと見込まれます。

このような状況の中で、当社グループはコア事業である印刷インキ事業において、各拠点での拡販に注力するとともに、環境に配慮した安全・省エネ志向製品や顧客ニーズに応じた地域密着型製品の開発、TPM活動の深化による生産性向上などに取り組みました。また、印刷インキの一部の原材料につきましては、感染症の影響や中国における環境規制の強化により、供給不足や価格の高騰が生じたことから、サプライチェーンの安定化やコスト削減の推進に取り組みました。一方、機能性材料事業では、インクジェットインキをはじめとして、トナー、カラーフィルター用顔料分散液などの開発・拡販に取り組みました。

売上高は、パッケージ関連の印刷インキは欧米で順調に拡販が進んだものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、印刷情報関連の印刷インキや機能性材料のデジタル印刷材料が低調であったことから、1,615億7百万円(前期比3.4%減少)となりました。

利益面では、印刷インキ事業において、パッケージ関連の販売数量の増加に加え、コスト削減が寄与したことなどから、営業利益は72億1千2百万円(前期比15.9%増加)となりました。経常利益は、持分法による投資利益が減少したことなどから、77億8千9百万円(前期比6.4%増加)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は法人税等調整額が減少したため52億7千5百万円(前期比28.2%増加)となりました。

なお、当期の期末配当金は1株あたり15円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後も一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役
社長執行役員

上野 吉昭

2021年3月

新型コロナウイルス感染症の影響と新たな取り組み

Topics

新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延は、年初の中国現地法人における事業活動停止に始まり、一年を通じて当社グループの事業活動に対して大きな影響を与えました。過去に例を見ない経済環境において、当社が受けた影響と事業継続のために取り組んだ施策についてご報告いたします。

■ 事業活動への影響

直接的な影響としては、中国やインドなどにおいて政府がロックダウンを実施したことにより、現地工場が稼働停止を余儀なくされたことで一時的に生産量が大きく低下しました。また、さまざまなイベントが中止となったことや外出自粛による経済活動の低下により、広告需要が急激に低迷し、情報メディア向けのインキは落ち込みました。そのほか、テレワークが広がったことによりオフィス機器向けのトナー需要も減少しました。しかし、当社の主力事業であるパッケージ用インキは、食品や衛生用品などの生活必需品の供給を支える事業、いわゆるエッセンシャルビジネスとして操業が認められ、早くに生産活動が再開もしくは生産活動を止めることなく、ビジネスが継続できました。そして、多くの地域において、在宅機会が増えたことによる冷凍食品や加工食品の需要、また感染症対策として衛生用品などの需要が増えたことにより、グループ全体としてパッケージ用インキの売上は増加しました。さらに、テレワークや在宅機会が増えたことによるディスプレイ需要の増加により、顔料分散液の売上も増加しました。全体として、プラスとマイナスの両方の影響がありましたが、結果として減収増益となりました。

2021年2月末現在の状況としましては、各地域ともに感染対策に万全を期したうえで、通常稼働をしております。

■ 新たな取り組み

コロナ禍においても事業の継続・発展を推進すべく、以下のような取り組みも積極的に行っています。

抗菌・抗ウイルスニスの展開

以前より展開していた抗菌ニスの拡充に加え、昨今の状況を踏まえた抗ウイルスニスの開発を早急に進め、8月に上市しました。さまざまな印刷方式に対応し、パッケージや書籍などへの塗布を目的として、抗菌製品技術協議会(SIAA)の認証も取得しており、多くの反響をいただいております。



抗菌・抗ウイルスニス

ウェブ展示会の出展や説明会の開催

多くのイベントが中止されるなか、一方でウェブを活用した展示会や説明会の機会を増やしています。実際に製品を見ることはできませんが、場所や時間の制約が少ないウェブならではのメリットを生かし、これまでよりも幅広く、多くの方との接点を持つことが可能となりました。



ウェブ展示会
「ケミカルマテリアルジャパン」出展

ドイツRUCO社の買収

欧州市場でのサカタインクスブランドの一層の向上を図るとともに、東欧・ロシア方面への販売拡大及びイギリス、スペインなどとの連携による生産の最適化を進め、欧州セグメントを拡充すべく、ドイツの老舗インキメーカーであるRUCO社を買収しました。144期より連結決算の対象となります。



RUCO社

新規事業やサステナビリティに向けた活動

デジタル化やコロナ禍による大きな時代の変化に対応し、これまでのインキ事業を基盤としつつ、新たな取り組みを始めています。異業種との協業や大学との連携、環境活動を推進する団体への資本参加など、社会、そして当社グループの持続可能な発展につながる事業活動に注力してまいります。

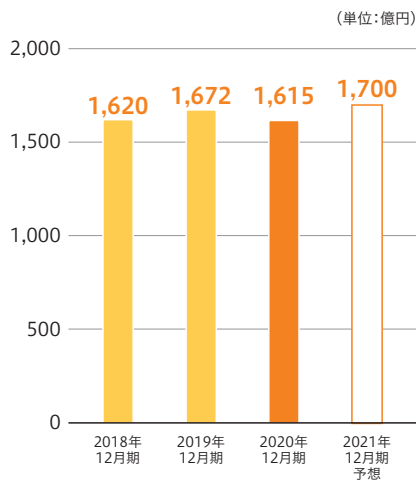


滋賀大学と協定締結

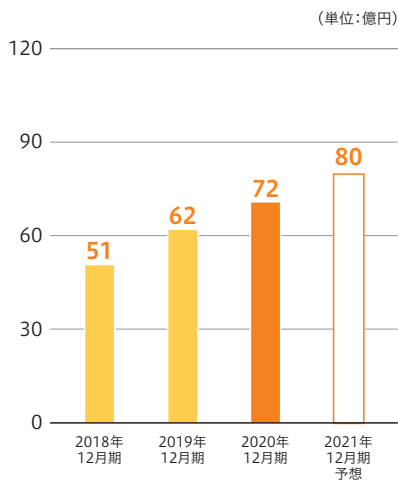
連結業績・財務ハイライト

Consolidated Financial Highlights

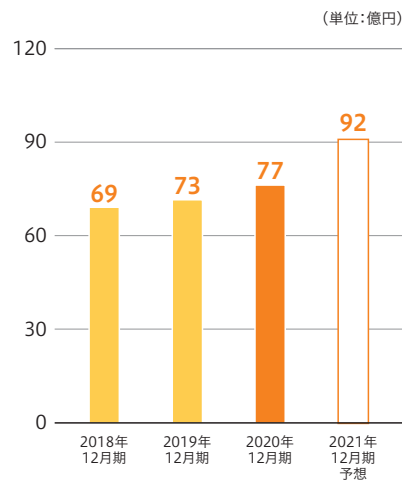
売上高



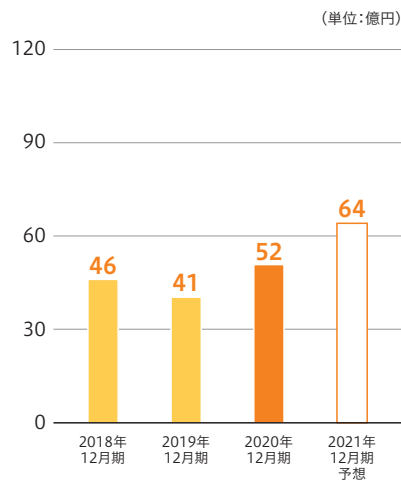
営業利益



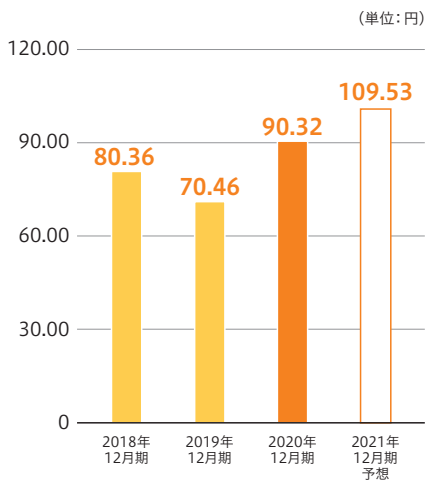
経常利益



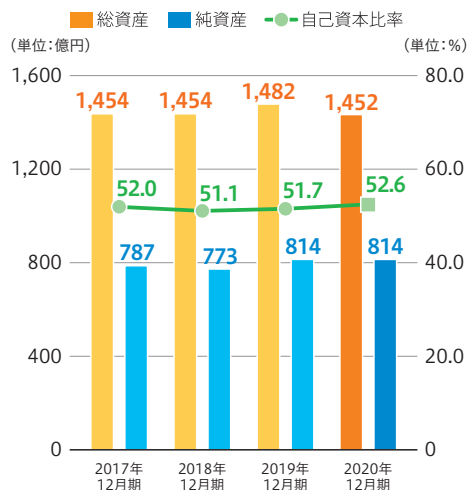
親会社株主に帰属する当期純利益



1株当たり当期純利益



総資産／純資産／自己資本比率



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

■ 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	前期末	当期末
		2019年12月31日	2020年12月31日
資産の部			
流動資産		79,064	77,640
固定資産		69,227	67,632
有形固定資産		41,173	40,338
無形固定資産		1,083	707
投資その他の資産		26,970	26,586
資産合計		148,292	145,272
負債の部			
流動負債		46,317	42,315
固定負債		20,535	21,535
負債合計		66,852	63,850
純資産の部			
株主資本		79,494	83,035
資本金		7,472	7,472
資本剰余金		5,672	5,672
利益剰余金		70,396	73,918
自己株式		△ 4,047	△ 4,027
その他の包括利益累計額		△ 2,798	△ 6,674
その他有価証券評価差額金		3,329	1,652
繰延ヘッジ損益		0	△ 0
為替換算調整勘定		△ 5,050	△ 7,281
退職給付に係る調整累計額		△ 1,078	△ 1,045
非支配株主持分		4,743	5,060
純資産合計		81,439	81,421
負債純資産合計		148,292	145,272

■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	前期	当期
		2019年1月1日～ 2019年12月31日	2020年1月1日～ 2020年12月31日
売上高		167,237	161,507
売上原価		131,507	126,049
売上総利益		35,730	35,458
販売費及び一般管理費		29,504	28,245
営業利益		6,225	7,212
営業外収益		1,693	1,172
営業外費用		600	596
経常利益		7,319	7,789
特別利益		311	187
特別損失		448	221
税金等調整前当期純利益		7,181	7,755
法人税、住民税及び事業税		2,039	2,245
法人税等調整額		387	△ 396
法人税等合計		2,427	1,849
当期純利益		4,754	5,906
非支配株主に帰属する当期純利益		639	630
親会社株主に帰属する当期純利益		4,114	5,275

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	前期	当期
		2019年1月1日～ 2019年12月31日	2020年1月1日～ 2020年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		9,819	10,599
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 5,106	△ 7,010
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 3,821	△ 980
現金及び現金同等物に係る換算差額		254	△ 292
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		1,146	2,317
現金及び現金同等物の期首残高		6,788	9,361
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		1,426	—
現金及び現金同等物の期末残高		9,361	11,678

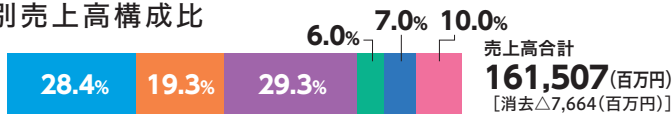
セグメント別概況

Segment Information

セグメント別売上高構成比

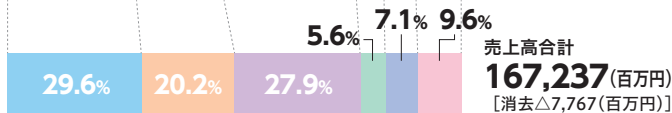
第143期

自 2020年 1月 1日
至 2020年12月31日



第142期

自 2019年 1月 1日
至 2019年12月31日



- 印刷インキ・機材(日本)
- 印刷インキ(アジア)
- 印刷インキ(米州)
- 印刷インキ(欧州)
- 機能性材料
- その他*

*「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、日本における化成事業、ディスプレイサービス事業および色彩関連機器事業等を含んでおります。

印刷インキ・機材 (日本)

売上高

480億7千1百万円

前期比7.3%減

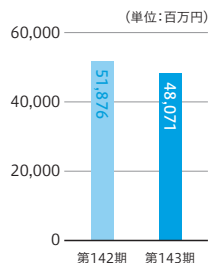
主要製商品

フレキソインキ、グラビアインキ、新聞インキ、オフセットインキ、印刷製版用材料、印刷製版関連機器

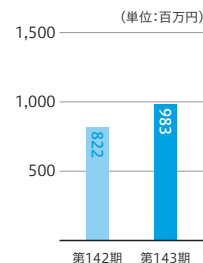
パッケージ関連では、食品廃棄量削減に向けた取り組みが続く中、上半期は感染症の影響による菓ごもり特需があったものの、下半期は外出自粛によるレジヤ消費の停滞等もあり、グラビアインキは前期を僅かに下回り、フレキソインキは紙袋や工業製品用途の需要が減少した影響もあり前期を下回りました。印刷情報関連では、デジタル化の影響に加え、感染症の影響により広告需要が一段と減少したことなどから、新聞インキ、オフセットインキともに落ち込みました。以上のことから、印刷インキ全体では前期を下回りました。機材につきましては、印刷製版用材料が低調であったことから、前期を下回りました。これらの結果、売上高は減収となりました。

利益面では、印刷情報関連の印刷インキ及び機材販売が低調であったものの、パッケージ関連の印刷インキは比較的堅調に推移したことに加え、全般的なコスト削減及び貸倒費用の減少が寄与したことなどから、営業利益は増益となりました。

売上高



営業利益



印刷インキ(アジア)

売上高

325億9千7百万円

前期比7.6%減

(参考)

為替影響排除後 4.5%減

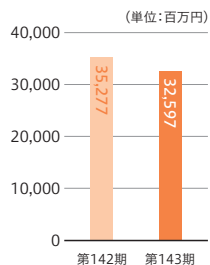
主要製商品

フレキソインキ、グラビアインキ、缶用インキ、新聞インキ、オフセットインキ

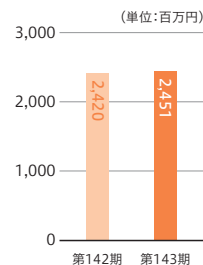
主力であるパッケージ関連のグラビアインキは、感染症の影響による需要の増加などにより、インドネシア及びベトナムは比較的堅調に推移し、上半期に事業活動に大きな制約を受けたインド、中国においても、下半期は回復傾向となりました。感染症の影響を強く受けた印刷情報関連では、中国では下半期は需要が回復したものの、インドでは需要の回復が鈍く、通期では新聞インキ、オフセットインキともに、販売が落ち込みました。売上高は、販売数量の減少に加え、円高による為替換算の影響を受けたことから、減収となりました。

利益面では、販売数量が減少したものの、コスト削減及び貸倒費用の減少が寄与したことなどから、営業利益は増益となりました。

売上高



営業利益



印刷インキ(米州)

売上高

495億1千万円

前期比 1.5%増

(参考)

為替影響排除後 5.6%増

主要製商品

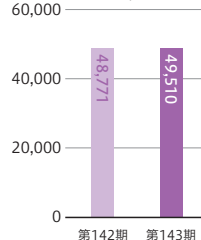
フレキシインキ、グラビアインキ、
缶用インキ、オフセットインキ

主力のパッケージ関連では、需要増加を背景として、顧客密着型の技術サービスの充実による高機能インキの拡販が奏功し、フレキシインキ及びグラビアインキが好調に推移しました。缶用インキはアルミ缶に対する需要の高まりもあり堅調に推移しました。印刷情報関連であるオフセットインキは、UVインキなどが堅調に推移したものの、デジタル化の影響に加え、感染症の影響により広告需要が一段と減少したことから、全体としては前期を下回りました。売上高は、円高による為替換算の影響を受けたものの、感染症の影響によるパッケージ需要の増加も影響し、販売数量が増加したことなどから、増収となりました。

利益面では、パッケージ関連での販売数量の大幅な増加に加え、全般的なコスト削減が寄与したことなどから、営業利益は増益となりました。

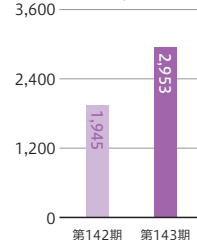
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



印刷インキ(欧州)

売上高

101億6千4百万円

前期比 3.8%増

(参考)

為替影響排除後 4.4%増

主要製商品

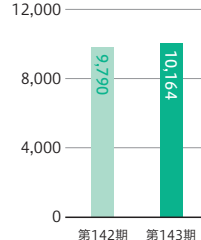
フレキシインキ、グラビアインキ、
缶用インキ、オフセットインキ

販売体制の強化により拡販が奏功したことに加え、感染症の影響によるパッケージ需要の増加も影響し、全体としては販売数量が増加しました。売上高は、販売数量の増加により増収となりました。

利益面では、感染症の影響により一部原材料の高騰があったものの、販売数量の増加に加え、組織再編や生産体制の強化によるコスト削減が寄与したことなどから、営業損失は減少しました。

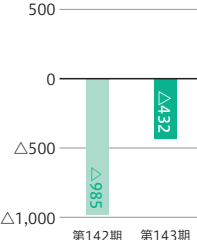
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



機能性材料

売上高

118億4千4百万円

前期比 4.9%減

(参考)

為替影響排除後 4.2%減

主要製商品

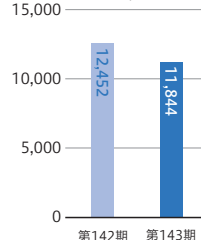
インクジェットインキ、トナー、
カラーフィルター用顔料分散液、
機能性コーティング剤

インクジェットインキは、第4四半期には販売が回復傾向に転じたものの、通期では感染症の影響により広告需要が大きく減少したことなどから、前期を下回りました。カラーフィルター用顔料分散液は、パネルディスプレイ市場における市況の改善が続いたこともあり、前期を上回りました。トナーは、感染症の影響によりオフィス用途の需要が低迷したことなどから、前期を下回りました。これらの結果、売上高は減収となりました。

利益面では、デジタル印刷材料の販売が低調であったことに加え、在庫評価減によるコスト増加や競争の激化により利益率が低下したことなどから、営業利益は減益となりました。

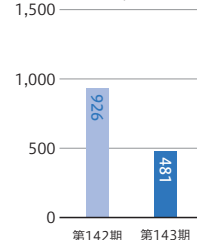
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



長期ビジョン/SAKATA INX VISION 2030

Long-term Strategic Vision

当社グループは、このたび、長期ビジョンを策定いたしました。

当社は、1896年の創業から今年で125年を迎え、これまで着実に成長してまいりました。一方で、近年はデジタルメディアの急激な普及や気候変動をはじめとした環境対策の必要性がより一層高まるなど、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化しており、今後さらに非連続的な変化が起こりうる状況にあります。

このような事業環境の変化の中で、当社グループが社会から求められる企業として持続的に成長していくためには、柔軟性を持ち、長期的な視点に立って、将来のあるべき姿と、そこに至る道筋や施策を策定し、常にグループ全体でそれらを共有・推進していくことが重要です。

サステナブルな社会の実現に貢献するため、さまざまな社会課題の解決に向けた一翼を担いつつ、当社グループのさらなる発展を果たしてまいります。

企業理念(マインドインマインド)

ビジネステーマ

ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造

存在意義

人々の暮らしを快適にする情報文化の創造

ビジョン

Create and Innovate, Care for the Earth, Color for Life

あなたと、つくる、価値ある、あした

新たな領域への挑戦によって“イノベーション”を生み出し、“地球”にやさしい技術で、“人生”を快適かつ豊かに彩り、世界中に笑顔があふれる未来を創る企業

戦略の方向性

印刷インキ・
機能性材料事業の拡大

地球環境と地域社会を重視した
ESG・サステナビリティの取り組み強化

新しい事業領域への挑戦

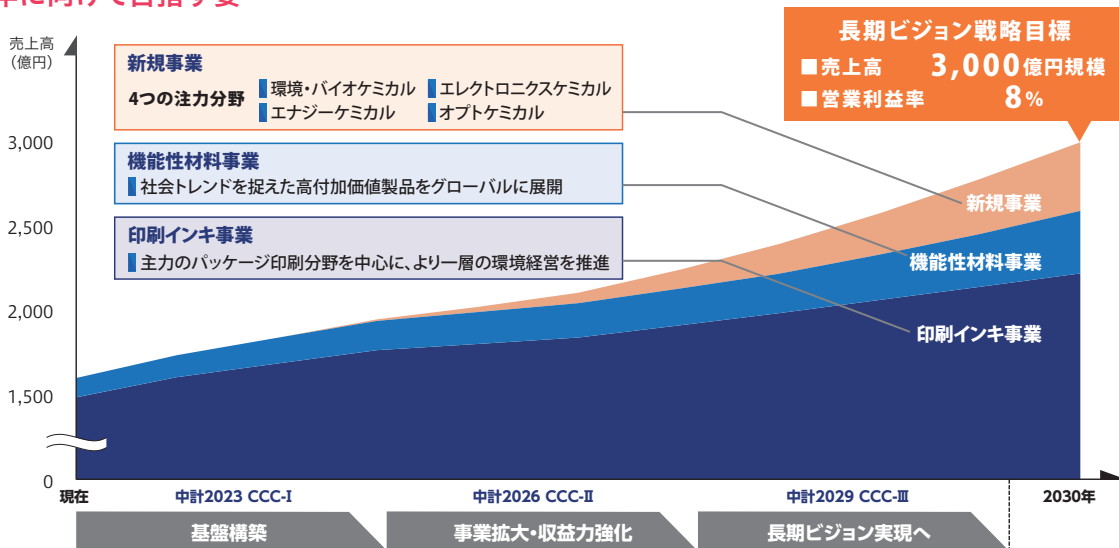
変革プロジェクト

グローバル連結経営の
さらなる強化

ステークホルダーとの関係強化

人材育成の強化
組織風土の改革

2030年に向けて目指す姿



既存事業の取り組み

印刷インキ事業

2030

パッケージ印刷分野 / 情報メディア印刷分野



- 環境経営の推進
- バリューチェーン全体の強化
- グローバルパートナーとの関係強化
- 高付加価値製品の開発と展開
- 国、事業をまたいだ最適経営の強化
- 成長市場・新規市場へ経営資源の投入

機能性材料事業

2030

インクジェット印刷分野 / ディスプレイ関連分野



- 社会トレンドを捉えた高付加価値製品をグローバルに展開
- グローバルでのさらなる連携強化
- 各市場での販売・収益力強化、ブランド力の向上

■ 新規事業の取り組み



■ ESG・サステナビリティへの取り組み



中期経営計画 2023 CCC- I

Mid-Term Business Plan

当社グループが今後進むべき方向性を長期ビジョン『SAKATA INX VISION 2030』で示しましたが、そのビジョン達成に向けて策定されたものが、『中期経営計画2023 (CCC-I)』になります。

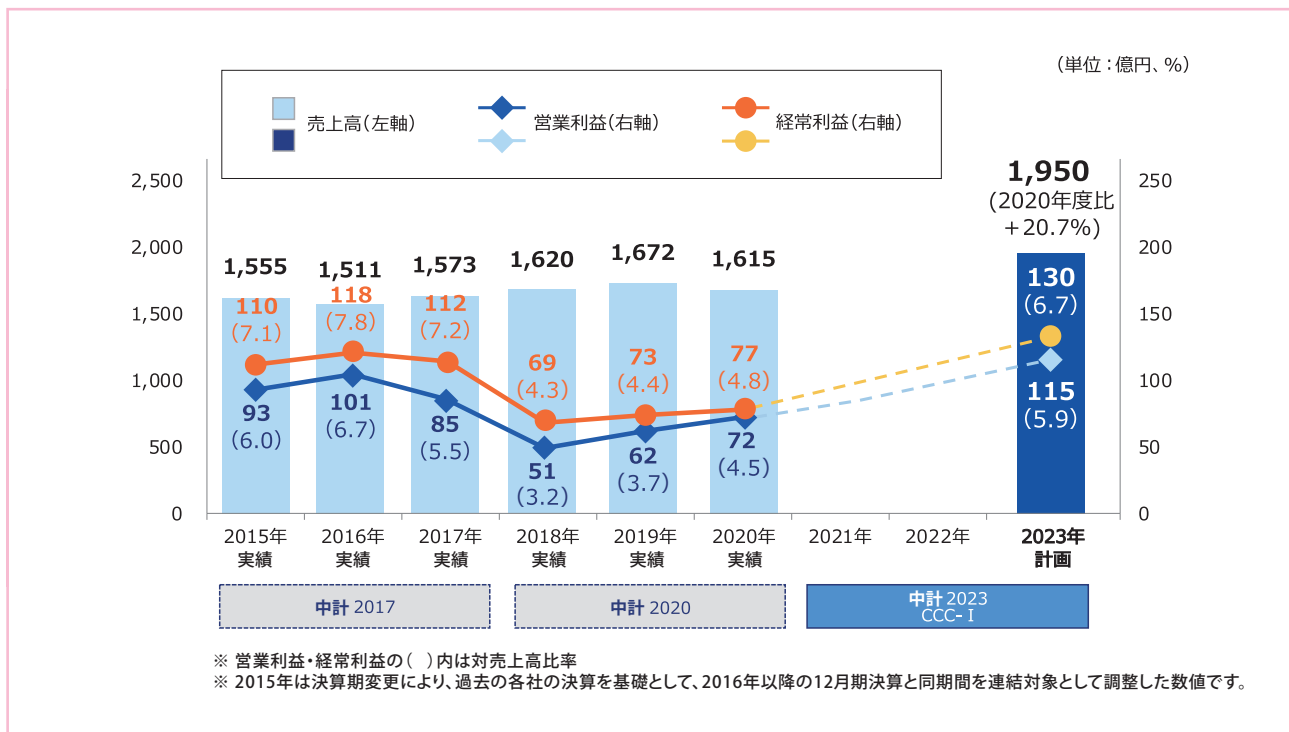
今中計の3カ年は、長期ビジョン達成に向けた基盤構築の期間と位置づけ、バックカスティングによりさまざまな施策を着実に遂行してまいります。

既存事業においては、グループ全体で環境への配慮を軸としたサステナブルな製品の積極展開を図っていきます。また、M&Aを中心とした戦略的な投資により新規市場への参入も目指します。新規事業の創出では、長期ビジョンで掲げた4つの注力分野に対して、オープンイノベーションとリスタートアップによる開発を進め、新しいビジネスモデルの提案も行なってまいります。さらに2030年のビジョン達成のための変革プロジェクトを立上げるとともに、必要な組織体制の構築も同時に行ってまいります。また、注力すべき領域や海外成長市場に対して経営資源を集中させると同時に、新たな収益となる柱の創出にも果敢に挑戦することで、企業価値を向上させてまいります。

これらのさまざまな取り組み施策を当社グループ全体で着実に実行することにより、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、事業拡大と収益力の強化を達成し、ステークホルダーの皆様からより一層の信頼を得られるように、長期ビジョン実現の第一歩として、中計の達成に向け邁進してまいります。

CCC-I：今中計を長期ビジョン『SAKATA INX VISION 2030』の「第一期・フェーズI」とし、

長期ビジョンのキャッチフレーズ「Create and Innovate, Care for the Earth, Color for Life」の頭文字から「CCC-I」と表記しました。



グローバルネットワーク

Global Network

■ グローバルネットワーク



イギリス(マンチェスター)



スペイン(バルセロナ)



ドイツ(フランクフルト)



チェコ(プラハ)



アメリカ(シカゴ)



アメリカ(オハイオ)



ブラジル(サンパウロ)



大阪本社



東京本社



インド(ニューデリー)



タイ(バンコク)



ベトナム(ホーチミン)



インドネシア(ジャカルタ)



中国(広東省茂名)

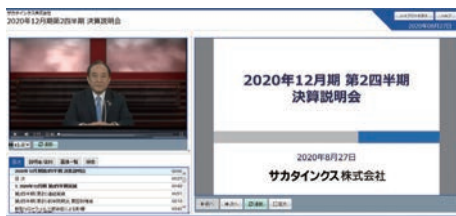
株主様向け情報

Information for Shareholders

IR活動の取り組み

当社は、株主や投資家の皆様が必要とする情報を適切に提供するため、IR活動に取り組んでいます。機関投資家向けの活動として、訪問面談のほか、コロナ禍によりウェブや電話を活用した面談も数多く実施しております。また、個人投資家向けの活動として例年は各種のIRフェアに参加していましたが、今年はコロナ禍により中止とされることも多く、残念ながら出展を見送りました(2021年1月開催のウェブ開催による「野村IR資産運用フェア2021」には出展しております)。

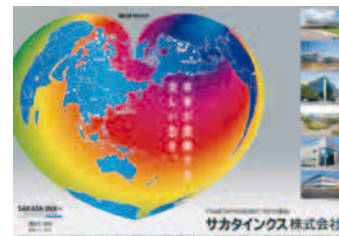
今後も当社の知名度向上と事業内容をご理解いただき、また話題性に溢れ、成長していく企業として認知していただくべく、IR活動に取り組んでまいります。



第2四半期決算説明会(ウェブ開催)

企業広告の掲出

東海道新幹線の新大阪駅コンコースと、東京駅北口(八重洲側)の大丸前通路に当社の企業広告を掲出しています。ダイナミックなカラーリングを施したハート形の世界地図が、視覚的印象から“心臓”を想起させ、それをキャッチコピーに活かし、「世界が鼓動する美しい色を。」として掲出しています。お近くをお通りの際は、ぜひご覧ください。



企業広告

株主還元について

配 当 金

2020年12月期の期末配当金は、1株当たり15円とさせていただきます。これにより、年間配当金は中間配当金と合わせて1株当たり30円となります。

株 主 優 待 制 度

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的に株主優待を実施しています。

対象となる株主様

毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式1単元(100株)以上を保有する株主様を対象といたします。

株主優待の内容

保有株式数	継続保有期間	優待内容
1単元(100株)以上	1年未満	QUOカード 500円
	1年以上3年未満	QUOカード 1,000円
	3年以上	QUOカード 2,000円

継続保有期間とは、それぞれ、同じ株主番号で毎年6月30日および12月31日現在の株主名簿に、1単元(100株)以上の保有を下記のとおり、連続で記載または記録されていることとします。

1 年 未 満：直近株主名簿に記載が2回以下

1年以上3年未満：直近株主名簿に連続3回以上6回記載

3 年 以 上：直近株主名簿に連続7回以上記載

贈 呈 時 期

毎年、定時株主総会終了後の3月下旬にお送りする「定時株主総会決議ご通知」とともに発送を予定しています。

株式情報

Stock Information

■ 株式数および株主数

(2020年12月31日現在)

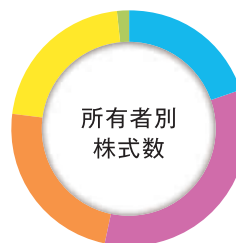
① 会社が発行する株式の総数	144,000千株
② 発行済株式の総数	62,601千株
③ 株主数	16,140名
④ 1人あたり平均持株数	3,878株

⑤ 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
① 東洋インキSCホールディングス株式会社	8,428	13.46
② 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,942	7.89
③ 株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,269	6.81
④ サカティンクス株式会社	4,182	6.68
⑤ 住友生命保険相互会社	3,510	5.60
⑥ JP MORGAN CHASE BANK 385632	2,763	4.41
⑦ NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE HCR00	2,300	3.67
⑧ サカティンクス社員持株会	1,611	2.57
⑨ 株式会社りそな銀行	1,563	2.49
⑩ 有限会社神戸物産	1,416	2.26

■ 株式の分布状況

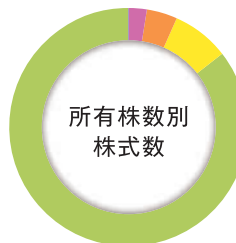
(2020年12月31日現在)



(千株) (株数百分率)

● 個人・その他	12,497	19.97%
● 金融機関	20,909	33.40%
● その他国内法人	14,882	23.77%
● 外国人	13,298	21.24%
● 証券会社	1,014	1.62%

(「個人・その他」に自己名義株式を含みます)

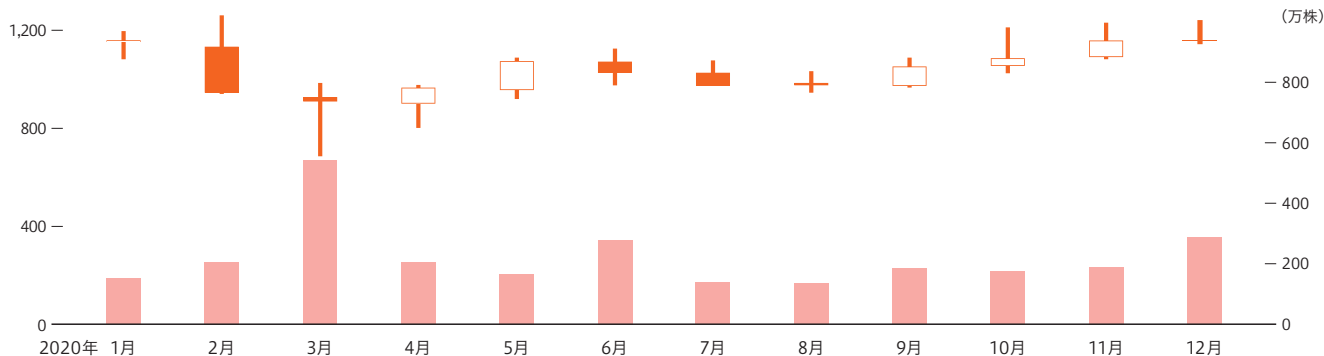


(千株) (株数百分率)

● 百株未満	13	0.02%
● 百株以上	1,631	2.61%
● 千株以上	2,619	4.19%
● 一万株以上	4,791	7.65%
● 十万株以上	53,545	85.53%

■ 株価および出来高の推移

(円)
1,600 -



会社情報

Corporate Information

■ 会社概要

(2020年12月31日現在)

創業	1896年(明治29年)11月1日
設立	1920年(大正9年)9月5日
資本金	7,472百万円 (百万円未満切捨て)
本社	(大 阪)大阪市西区江戸堀一丁目23番37号 (東 京)東京都文京区後楽一丁目4番25号(日教販ビル)
事業内容	各種印刷インキ・補助剤の製造・販売 印刷用・製版用機材の販売 電子機器・情報関連機材の販売 機能性材料関連品の製造・販売 輸出入
国内営業拠点	支社(愛知・岡山・福岡) 支店(北海道・宮城・静岡・石川) 営業所(青森・新潟・神奈川)
国内生産拠点	東京工場 (千葉県野田市) 大阪工場 (兵庫県伊丹市) 滋賀工場 (滋賀県米原市) 羽生工場 (埼玉県羽生市)
海外拠点	アメリカ・カナダ・ブラジル・イギリス・スペイン・チェコ ・イタリア・ドイツ・フランス・インドネシア・インド・ ベトナム・タイ・中国・フィリピン・マレーシア・台湾
従業員数	連結 4,598名(単体 864名)

■ ウェブサイトのご案内

ニュースリリースやIRトピックスなどの最新情報を掲載しています。(http://www.inx.co.jp/)



サカタインクス

Q検索

■ 役員

(2021年3月26日現在)

取締役

取締役 会長	森 田 耕太郎
代表取締役	上 野 吉 昭
取締役	中 村 正 樹
取締役	中 村 均
取締役	福 永 俊 彦
取締役	潟 浦 雄 一
社外取締役	中 川 克 己
社外取締役	勝 木 保 美
社外取締役	和 泉 志 津 恵

監査役

常勤監査役	手 島 泉
常勤監査役	森 貴 弘
社外監査役	佐 藤 義 雄
社外監査役	杉 本 宏 之

執行役員

社長 執行役員	上 野 吉 昭
専務執行役員	中 村 正 樹
専務執行役員	中 村 均
常務執行役員	福 永 俊 彦
上席執行役員	森 田 博
上席執行役員	西 田 利 行
上席執行役員	芳 村 嘉 也
上席執行役員	潟 浦 雄 一
執行役員	宮 田 明 夫
執行役員	松 尾 晴 彦
執行役員	濱 田 洋 一
執行役員	建 入 実
執行役員	芳 澤 廣 之
執行役員	木 村 隆 司
執行役員	淵 野 昌 弘

株主メモ

Shareholder Memo

事業年度 1月1日から12月31日まで
定時株主総会 3月開催
基準日 定時株主総会 12月31日
期末配当金 12月31日
中間配当金 6月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031

(URL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告の方法 電子公告とし、当社ウェブサイトに掲載いたします。
(公告掲載URL <http://www.inx.co.jp/>)
ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告
ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 東京証券取引所

会計監査人 有限責任 あずさ監査法人

お問い合わせ先 住所変更、単元未満株式の買取・買増等について
株主様の口座のある証券会社にお問い合わせください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設され
ました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井
住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。

未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社まで
お問い合わせください。

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続き
が必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社など
へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載
し、税務署へ提出いたします。

主な支払調書 ○配当金に関する支払調書
○単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引
に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とのお取引がない株主様
下記のフリーダイヤルまでお問い合わせください。
三井住友信託銀行 証券代行部
☎0120-782-031

サカタインクス株式会社

■大阪本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-23-37
TEL 06-6447-5811

■東京本社 〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-25(日教販ビル)
TEL 03-5689-6601

●ウェブサイト
<http://www.inx.co.jp/>



この報告書は、FSC®認証紙/木材を使用し、インキ中のVOC(揮発性有機化合物)成分を取り除き、植物油成分に置き換えて開発した当社製のDiatoneエコピュアSOY CL-100Xにて印刷しております。